顔学会ウラのカオ
～学会運営に携わる委員会のご紹介～

電子広報チーム

前会長の輿水大和先生が率いる電子広報チームは、林純一郎先生（香川大学）、冨永将史先生（名古屋文化短期大学）、藤原孝幸先生（北海道情報大学）、及び私を含め情報技術を専門とする精鋭（？）が担当しています。全員が大学の教員で、北は北海道、南は四国まで物理的には離れていながら、主にメール上でのやり取りにて学会の仕事をしています。顔学会の大会などで実際に会うときも「会議」や「打ち合わせ」という形式にとらわれず、食事をしながらコーヒーを飲みながらと短い時間で重要な業務打ち合わせが出来てしまう素晴らしいチームです。研究面でも顔学会に対し工学分野からの貢献を目指して議論をする仲間です。

主な仕事は、顔学会のウェブサイト及びメーリングリストの運営・保守・管理です。理事会や総務会と密接に連絡を取り合いながら、様々なイベントの案内などをウェブサイトやメーリングリストを通じて配信しています。また、フォーラム顔学ウェブサイトのテンプレートも作成しています。間違った情報を配信しないように確認したり、細心の注意を払ってメーリングリストの名簿を管理したりと思ったより人手に頼っている部分があります。

顔学会のウェブサイトは、多くの人の目に触れるいわば顔学会の電子的な「顔」です。創設時から用いられてきたモナリザをモチーフとして、2015年には20周年記念にあわせて大幅なリニューアルを行いました。これまでデザインは業者に依頼せず、全てチームの手作りで行っています。つい先日も、「ウェブサイトをさらに良くするために改善しよう」という連絡を受け、皆で協力しながら改善案を策定しているところです。是非会員の皆様からも忌憚のないご意見やフィードバックをお待ちしています。

日本顔学会　理事
（電子広報担当）
筑波大学　鈴木 健嗣

輿水　大和

鈴木　健嗣

林　純一郎

冨永　将史

藤原　孝幸

第23回日本顔学会大会（フォーラム顔学2018）のお知らせ

日本顔学会は、顔に関連した分野の従来の枠組みを超えたネットワークの創造と、研究発表の場として登壇・デモ発表を中心とした学術大会を開催しております。奮ってご参加ください。

◇**詳細はフォーラム顔学2018ホームページをご覧ください。**
http://www.jface.jp/forum2018/

※9月1日（土）に顔学会の総会を開催いたしますので、会員の方はご出席ください。

■ **日　程**：2018年9月1日（土）～2日（日）
■ **会　場**：明治大学　中野キャンパス
■ **所在地**：〒164-8525　東京都中野区中野4-21-1

・大　　会　　長：荒川　薫（明治大学）
・実 行 委 員 長：宮下　芳明（明治大学）
・プログラム委員長：鹿喰　善明（明治大学）
・広 報 委 員 長：橋本　典久（明治大学）
・大 会 実 行 委 員：五十嵐　悠紀（明治大学）
大谷　智子（東京藝術大学）
高橋　治輝（明治大学）
中村　美恵子（東京藝術大学）
渡邊　恵太（明治大学）

大 会 ス ケ ジ ュ ー ル

9月1日(土)	時　間	9月2日(日)
開場・受付開始	09：30	口頭発表4 自動生成（4演題）
開会の挨拶	10：30	
口頭発表1 「顔の視覚」（3演題）	10：40	企業展示紹介 ポスター2紹介
	11：00	ポスター発表2 デモ発表・作品展示 コアタイム
企業展示紹介 ポスター1・デモ発表・ 作品展示紹介	11：35	
（お昼休み）	12：00	（お昼休み）
総会	13：00	
ポスター発表1 デモ発表・作品展示 コアタイム 顔身体学シンポジウム	13：30	理事会企画 （原島賞、輿水賞授与式など）
口頭発表2 「大会テーマセッション： 顔はインタラクション（5演題）	14：30	特別講演2　森川　嘉一郎 氏 「おたく文化における 美少女の様式について」
	15：30	閉会の挨拶
口頭発表3 似顔絵・盛り顔・笑顔（4演題）	15：50	
特別講演1　杉原　厚吉 氏 「本当のことを知っても修正 できない立体錯視の不条理」	17：00	
イブニングシンポジウム	18：10	

編集委員

中洲　俊信

髙野　ルリ子

城戸崎 雅崇

富澤　洋子

正田 真利恵

菅沼　薫（協力）

米澤　泉（協力）

上田　彩子（協力）

松永　伸子（協力）

メンバー募集中！

イベントなどでニューズレターを配布・広報いただける場合は、事務局までお知らせ下さい。

発行：日本顔学会 ©　編集・製作：日本顔学会 J-FACE 編集委員会　日本顔学会事務局
〒100-0003　東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F　株式会社毎日学術フォーラム内　TEL：03-6267-4550　FAX：03-6267-4555
発行日：2018 年 8 月 21 日　＊無断転載を禁じます。

J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニューズレター 67 号
21 AUGUST 2018 Vol.67　http://www.jface.jp

Contents

P1. Now the Face
P2. 第46回＆第47回化粧文化研究者ネットワーク研究会報告
P3. 美人画研究会の最近の活動報告／日本顔学会/HC塾共催「顔学連続講座」報告
P4. 顔学会ウラのカオ／第23回日本顔学会大会（フォーラム顔学2018）のお知らせ

now the face 第50回

今、を感じさせる
KAO の人物を紹介する

第23回日本顔学会大会（フォーラム顔学2018）は、2018年9月1日（土）、2日（日）に明治大学中野キャンパスで開催されます。
大会テーマは、「顔はインタラクション」で、特別講演を2件企画しましたので、ご紹介します。

■特別講演1：本当のことを知っても修正できない立体錯視の不条理

講師：杉原 厚吉氏
（明治大学特任教授）

不可能図形とよばれるだまし絵があります。これは、絵には描けるけれど、立体としては作れそうにない三次元構造を表したもので、20世紀の前半にたくさん見つかりました。しかし、視覚の数理モデルを使って調べると、不可能図形の中には立体として作れるものがあることがわかります。この発見から出発して、あり得ない動きが見えてくる不可能モーション立体、鏡に映すと姿が変わる変身立体、鏡に映すと一部が消える透身立体など、新しいタイプの不可能立体も創作できます。多様な不可能立体を観察しながら、本当の形を知った後でもなお起こる錯視の不条理と、その背景に潜む「見る」ことの不思議についてお話しいただきます。

杉原 厚吉 氏
Sugihara Kokichi

杉原先生は、1973年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、電子技術総合研究所、名古屋大学 、東京大学などを経て、2009年4月より現職。専門は数理工学。ロボットの目を開発する研究の中で、不可能図形のだまし絵を立体化する手法を見つけ、立体錯視の分野へも研究を広げられてきました。さまざまな不可能立体を創作し、立体錯視アーティストとしても活躍していらっしゃいます。国際ベスト錯覚コンテスト優勝2回、準優勝2回されています。

■特別講演2：おたく文化における美少女の様式について

講師：森川 嘉一郎氏
（明治大学　国際日本学部　准教授）

1990年代の末頃から、秋葉原の街並みには、アニメ調の美少女をあしらった広告物が密度高く並ぶようになり、都市の貌を構成するようになりました。前後してこの絵柄は、日本のマンガ・アニメ・ゲームの国際的浸透にともない、フジヤマ・ゲイシャ・ウォークマンなどと並ぶ日本の貌の一つにもなり、秋葉原に訪日観光客を引き寄せる文化資源にもなっています。その絵柄、あるいは様式の、特質や形成過程についてお話しいただきます。

森川 嘉一郎 氏
Morikawa Kaichiro

森川先生は、早稲田大学大学院修了（建築学）。2004年ベネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館コミッショナーとして「おたく：人格＝空間＝都市」展を製作（日本SF大会星雲賞受賞）。桑沢デザイン研究所特別任用教授などを経て、2008年より現職。明治大学において「東京国際マンガミュージアム」（仮称）の開設準備、および米沢嘉博記念図書館の運営に関わっていらっしゃいます。著書に『趣都の誕生 萌える都市アキハバラ』（幻冬舎、2003年）などがあります。

（第23回日本顔学会大会　大会長　荒川　薫）

第46回&第47回 化粧文化研究者ネットワーク研究会報告

第46回「美容整形への抵抗感はどこから来るか？」

講師：松下　戦具 先生【大阪樟蔭女子大学 准教授】
日時：2018年3月9日（金）14：00～16：30
場所：大阪樟蔭女子大学　小坂キャンパス

メスを使わない施術の拡大で、美容整形はだいぶ身近になってきた。とはいえ、友人や知人と美容整形の話をすることは滅多にない。情報や広告は爆発的に増えているのに、相変わらずスッキリしないのが美容整形だ。美容整形につきまとう否定的な感情や道徳的信念。松下戦具先生は、そうした抵抗感がどこから来るのかについて、大学生と大学院生へのアンケート調査（85名）にもとづいて、発表してくださった。

研究会は、参加者が調査に用いられた質問紙に回答するところから始まった。松下先生がこのテーマに取り組むまでの経緯を面白く話してくださったこともあって、会場が一気に和む。ご報告では、20項目の質問が因子分析によりグループ化され、抵抗感と整形を「誰が受けるのか」ということを付き合わせた結果が示された。そして抵抗感は、外部由来（道徳規範など）と内部由来（不安・恐怖）に分けて考えることで、前者は誰でも一般的に見受けられるが、後者は自分が受けることを想起した時に意識されることが明らかになった。同時に、道徳規範の影響範囲は広いが個人の基準としては脆いという面や、他者の施術に道徳以外をあげる場合は自己投影している可能性も見えてきた。討議は、整形体験も含めて大いに盛り上がり、松下先生も、継続調査へのヒントをいくつも吸収されているようで、充実したものになったと思う。

従来、美容整形の研究は「なぜ、美容整形を受けるのか」という方向を向いていて、それと表裏一体にあるはずの「しない理由」が掘り下げられることはなかった。また「バレたら…といった懸念がつきまとっているせいか、量的調査も不足している。松下先生の「美容整形をしない理由」に焦点を当てた実証研究は、視点を転換したユニークで貴重なものといえる。継続調査の分析にも大きな期待が寄せられた。

（川添 裕子）

第47回「人を輝かせるメイクの力」

講師：岡元　美也子 先生
【(株)資生堂　トップヘアメイクアップアーティスト】
日時：2018年6月30日（土）14：00～16：30
場所：資生堂 汐留ビル（東京都港区）

岡元先生は、資生堂に入社後、メイクアップアーティストとして、TVCM・ポスターや雑誌撮影などをご担当、数多くのコレクションのメイクチーフも務められた。近年のプロデュース商品には「PLAYLIST（プレイリスト）」や「ドルチェ＆ガッバーナ」のメイクアップ商品などがある。

2011年の東日本大震災後に開催された写真展「東北のミューズ（女神）たち」においては、被写体になった6人の被災女性にメイクをして、人の気持ちを前向きにするメイクの力を実感されたという。

この時の体験や、5年間のニューヨーク駐在時の経験をもとに、先生が提唱されているのが、トレンドを取り入れた「脱フルメイク」。1点に集中したミニマムなメイクで、その人の魅力を引き出すメソッドである。前半は、スライドを交えて「脱フルメイク」の実例をご紹介いただいた。

後半は、会場の参加者から4人のモデルを募ったメイクデモが行われた。このうち男性に対しては、眉マスカラなどを使って毛流れを上向きにすることで、顔全体をリフトアップした印象に。ファンデーションの厚塗りが気になると悩む若い女性には、ベースの整え方をアドバイス。少量でカバーできるコンシーラーを使って、目の下や小鼻・口角など肌の色ムラが気になる部分だけをカバーするミニマムな引き算メイクでナチュラル肌に。4人のメイク後の印象の変化を目の当たりにして、参加者からは感嘆の声が上がった。

この他、2018秋冬トレンドの紹介とともに、このところ注目されてきた赤リップや、ツヤ肌、太眉は終息傾向にある、などのコメントもいただいた。

近年、化粧品業界の売上げは、インバウンド効果もあり絶好調だが、人々のライフスタイルは、自分に本当に必要なものだけを選んで消費する傾向にある。メイクも然り。「脱フルメイク」の実践は、「しっかりメイクしなくちゃ」という従来のメイクの束縛から自分を解放することであり、今よりもっと楽なメイクで、いくつになっても輝いていたい女性たちの背中を後押ししてくれそうだ。また、「メイクして外に出て、他人に『きれいになったね』と言葉をかけてもらうことで、人はより輝く」と先生がおっしゃるように、メイクが人と人を結ぶコミュニケーションツールであることも、再認識することができた研究会だった。

（山村 博美）

美人画研究会の最近の活動報告

◉詳細は、美人画研究会ホームページへ　https://bijingakenkyukai.jimdo.com/

■第13回研究会（アカデミック）2月4日　森下文化センター

○第1部　研究発表

斎藤　忍 氏「オリジナリティを優先した似顔絵の描き方」
田中　晃 氏「田中針水～美人画家から家族画家への変容」

○第2部　美人画紹介

稲垣 進一 氏「月岡芳年と明治の美人画」
畑江 麻里 氏「美人画展で人気の作品紹介」

稲垣氏は所蔵されている芳年の作品（極めて状態の良いもの）を持参され間近に鑑賞することができた。

■第14回研究会（クリエイティブ）4月22日　森下文化センター

○第1部「美人画と似顔絵を描き比べてみよう！」

斎藤忍氏の指導のもとでまずモデルさんを美人画として描き、次に似顔絵に挑戦し、最後にベスト作品（似顔絵大賞）を選ぶ。初めての似顔絵では特徴をつかんで強調することに皆さん苦労された様子。

○第2部「『智恵子抄』の智恵子を描いて来よう！」

各自で描いた「智恵子」を持ち寄り、それぞれイメージしたものを話し合い、個性的な「智恵子」を比較検討する。
なお会場内のギャラリーで2月3日と4日にメンバー10名の「作品展」を同時開催するという初めての試み。

■美術館訪問　3月11日

世田谷美術館「パリジェンヌ展」

鑑賞後、館内のレストランで昼食をとりながら感想を交換する。

静嘉堂文庫美術館「国貞展」

バスで移動し、岩崎家所蔵の保存状態の良い名作の数々をじっくりと鑑賞した。

7月7日に第15回研究会（アカデミック）が開催されました。内容は次号以降に報告します。

（城戸崎 雅崇）

日本顔学会／HC塾共催「顔学連続講座」報告　講師：原島　博 先生

池袋「ルノアール会議室」にて、参加者の便宜を考慮し土曜の午後と週日の夜に同内容で行われました。多彩で楽しいお話のほんの一部のご紹介です。

◉第1回　顔とは何か？（4月14日・18日）

・どこまでが顔で、どこからが頭か（ユニークな答え=朝、顔を洗うときに洗う範囲が顔）
・顔の進化（はじめに口ありき・人の顔の特徴は、顔の表情は万国共通）
・なぜ人は顔にこだわるのか（心の窓として、メディアとしての顔）など。

◉第2回　人は顔でどうコミュニケーションしているのか
ー笑顔を中心に考えるー　（5月12日・16日）

・いつから笑顔に関心を持ったか（モナリザを笑わせた・1985年）
・そもそも笑いとは何か（基本的な感情=笑い・驚き・恐怖・怒り・嫌悪・悲しみ）
・笑いの起源（ラフ laugh とスマイル smile 、笑いの攻撃性と協調性）
・笑いには文化がある（東京と大阪の笑い、タテ社会=ピラミッド社会ではなくヨコ社会=平等社会で笑いを大切に）
・笑顔の効果（健康にいい・若くみせる、他さまざまな効果）など。

◉第3回　顔学。そして顔学会
ー何を目指すのかー（6月2日・6日）

・「顔学」は日本だけにある。古くから「人相学」はあり18～19世紀には「骨相学」「観相学」が登場したが、学問としてはタブーだった。
・顔学会のルーツ（1991年軽井沢「ワークショップ『顔』」、92年新宿「シンポジュウム顔」、学会発足前後の著書（写真）など）
・1995年3月日本顔学会が誕生（発起人=馬場悠男先生・村澤博人先生・原島博先生、初代会長=香原志勢先生）。学会誌「KAOGAKU」2001年10月創刊、ニューズレター「J-FACES」1996年3月創刊
・顔学は人間学（等身大の科学、感性の科学、社会に開かれた科学、文理にまたがる学際科学）
・ダ・ヴィンチ科学（専門知→総合知、理性知→感性知）
・ユニークな開かれた学会の活動「大顔展」1999年上野、名古屋、札幌、福岡で開催、『顔の百科事典』2015年刊行 など。

（城戸崎 雅崇）